

開催地決定までのフロー

❁ 2030年大会開催地決定までの道のり

大会招致のプロセスは、東京大会を含めて、IOCの総会でプレゼンテーションを行い、IOC委員からより多くの票を得た都市が開催都市として決定されるという、いわば招致レースが繰り広げられるものでした。

しかし、持続可能なオリンピック・パラリンピックの実現に向けて、2019年6月のIOC総会で大幅な改革が行われ、招致のプロセスにも変更がありました。

これにより、IOC内部に設置された「将来開催地委員会」と大会の開催に関心を持つ都市が、招致年次を定めずに協議する「継続的な対話」を経た後に、「将来開催地委員会」の提案に基づきIOC理事会で優先候補地とされた都市が、招致年次を定めた「狙いを定めた対話」に移ることとなります。

そして、「狙いを定めた対話」に移行した都市は、開催地となるために必要な要件を整えた後、IOC総会で開催地として決定されることとなりました。

現在、札幌市はIOCと「継続的な対話」を行っているところですが、今後は将来開催地委員会やIOC理事会の判断により、「狙いを定めた対話」に移行します。

「狙いを定めた対話」では、これまで検討してきた大会計画をもとに、将来開催地質問状の回答や各種保証書を提出し、2023年9月～10月に開催されるIOC総会において、2030年大会の開催地が決定する予定です。

なお、開催都市契約の内容についても、この過程の中でIOCと協議していく予定です。

